

	経済学部産業社会学科
DP	<p>産業社会学科は、本学立学の精神と、本学部の人材養成目的「経済という一つの窓を通じて社会を見つめ、多様化・複雑化する社会に柔軟に対応できる自立的人間の養成」、ならびに本学科の教育目標「体験型・実践型の科目を豊富に含む経済学研究の過程を通じて、現代社会に活力を与えられる自立した人間の養成」に基づき、次の資質・能力を身につけた学生に学士(経済学)の学位を授与します。</p> <p>①幅広い教養と語学力を身につけ、環境・地域・福祉・文化などの視点から現代社会の変化を読み解き、公正な立場で、新しい社会を切り開く能力を修得している。</p> <p>②経済学をもちいて経済・社会の変化を分析し、その有り方を構想できる能力を修得している。</p> <p>③現代社会の変化に柔軟に対応しながら、社会に貢献し続けていくために、生涯にわたって主体的、自立的に学ぶ能力と協働する能力を修得している。</p>
CP	<p>産業社会学科は、本学科の教育目標を達成し、学位授与方針に示す資質・能力を身につけさせるため、次のような、教養教育部門と専門教育部門より構成される教育課程を編成し、実施します。いずれの科目群においても一定以上の単位数の修得を義務付け、経済学の枠を超えた深い知識・理解を身につけるために、幅広い学修を求めています。</p> <p>①教養教育部門は、「基軸科目」、「人文科学科目」、「社会科学科目」、「自然科学科目」、「情報科学科目」、「キャリア教育科目」、「教養演習科目」、「英語科目」、「第二外国語科目」、「健康・スポーツ科目」の10部門から構成される。これらの科目を幅広く履修することにより、コミュニケーション能力、情報活用能力、論理的思考力など、基本的技能を養うことができるようにする。</p> <p>②専門教育部門は、経済学の学識を深めるための部門である。部門全体はさらに専門基礎、ゼミナール、フィールドワーク・実習、理論経済、現代社会などの諸部門に分けられ、それらの部門内の諸科目は、体系性と順次性を踏まえて開講されている。本学科ではフィールドワーク・実習部門をはじめとする諸専門科目を系統的に履修することにより、経済学の知識を着実に身につけ、経済・社会の変化を的確に分析し、その有り方を構想できる能力を養うことができるようにする。</p> <p>③産業社会学科の教育上の特徴として、初年次の基礎ゼミナール、専門ゼミナール、フィールドワークといった少人数教育の場を数多く設けていることが挙げられる。これは「一人一人の個性が尊重される教育を実現する」という意図によるものであるが、こうした少人数教育により、自主的かつ持続的な探究心を育むとともに、他者との議論を通じて、相互理解に努めることの重要性を認識できるようにする。</p> <p>④産業社会学科では、本学科の学修成果評価基準にもとづいて、厳格な成績評価と単位認定を行う。また、ゼミ担当教員や教務担当教員が、学修行動調査やGPA、修得単位数にもとづいた個別指導を行うことにより、個々の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。ゼミレポート発表会や優秀論文公募などを実施し、講評や表彰による評価を通じて、主体的に課題と取り組む姿勢やプレゼンテーション能力を身につけることができるようにする。</p>
AP	<p>産業社会学科は、本学科の教育理念・教育目標を理解し、高等学校等における学習を通して、次のような能力・態度を身につけている人を受入れます。</p> <p>①高等学校までの学習による基礎学力を身につけている。</p> <p>②産業社会学科での学修成果を戦略・政策の立案に活かすことに興味を持っている。</p> <p>③チャレンジ精神にあふれ、感受性と積極性を持ち、生涯にわたって学び続ける意欲がある。</p>
アセスメント・ポリシー	<p>学科レベルでは、ディプロマ・ポリシーの科目群ごとのGPAの数値に加えて、単位取得状況、学修行動調査、卒業時調査及び学生アンケートにより評価する。</p> <p>科目レベルでは、シラバスに記載してある方法で成績評価を行う。評価は、テストやレポートなど科目の内容に合わせた方法で実施する。</p>